平成15年度
中間報告書

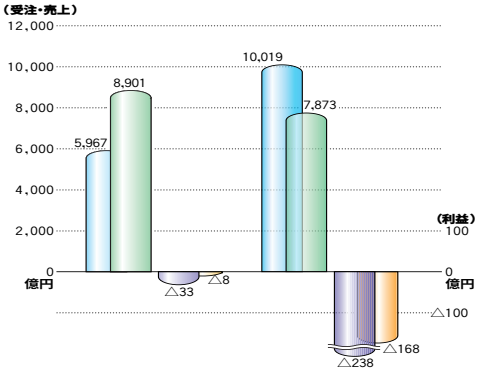
平成15年４月１日から平成15年９月30日まで

三菱重工業株式會社

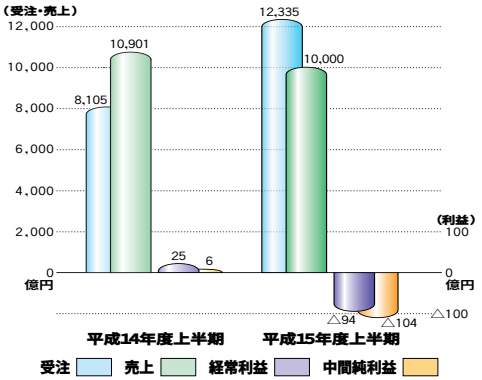
業績

受注・売上・経常利益・中間純利益

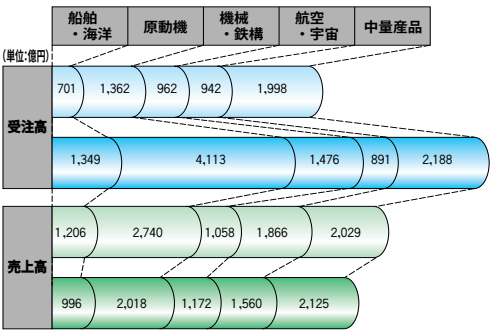
単独



連結



部門別受注高・売上高 単独



受注高・売上高共に上段：平成14年度上半期，下段：平成15年度上半期

ごあいさつ

平成15年度中間報告書をお手もとにお届けするに当たりまして，一言ごあいさつ申し上げます。
当上半期における我が国経済は，公共投資の減少傾向が継続しているものの，堅調な個人消費に支えられた米国経済が順調に回復しつつあることや，ＳＡＲＳ（重症急性呼吸器症候群）が比較的早期に終息したため，アジア経済に対する影響が限定的であったことを背景に輸出が拡大し，これに牽引される形で民間設備投資も徐々に増加するなど，緩やかな景気回復の傾向にありました。
このような状況下におきまして，当社は全社を挙げて懸命な受注・販売活動を展開しました。その結果，当上半期の受注につきましては，輸出が大型コンテナ船の一括受注や長期にわたる営業活動が実を結んだ大型火力発電プラントの相次ぐ成約，中国向け押出成形機をはじめとする中量産品の増加などにより大幅に伸長しました。また，国内でも新分野のＰＣＢ（ポリ塩化ビフェニール）廃棄物処理施設の受注に成功するなどの成果がありました。この結果，当上半期の受注高は，前年同期を約68％上回る１兆19億52百万円となりました。
一方，売上高は，機械・鉄構部門及び中量産品部門は増加しましたが，原動機部門で大型案件の引渡しが減少したほか，航空・宇宙部門及び船舶・海洋部門も減少したため，前年同期を約12％下回る７,873億７百万円となりました。
損益面では，販売費及び一般管理費等の費用削減は進みましたが，当上半期の売上高が前年同期に比べ大幅に減少したことなどにより，営業損失は87億54百万円となりました。更に，為替レートが当上半期末にかけて急激に円高に推移した影響を受け，135億41百万円の為替差損を計上したため，経常損失は238億63百万円，中間純損失は168億60百万円となりました。
なお，当上半期の連結業績は，売上高は１兆43百万円，営業利益は105億８百万円となりましたが，為替差損を計上したことなどにより経常損失は94億29百万円，中間純損失は104億65百万円となりました。

当社の当上半期は中間純損失を計上いたしましたが，今後も事業体質の改善に努め，当年度については純利益を確保できる見通しにありますので，当年度の中間配当金につきましては，平成15年11月６日開催の当社取締役会の決議により，前年度と同じく１株につき３円とし，平成15年12月２日からお支払いを開始することとさせていただきました。

今後の我が国経済は，引き続き堅調な景気回復が予想される米国・アジア向けを中心とした輸出の拡大及びこれを背景にした民間設備投資の増加が見込まれますが，為替変動が輸出拡大に影響を与えることが懸念され，一方公共投資は依然減少傾向が継続するなど，先行きは必ずしも楽観を許さない状況にあります。

このような経営環境の下，当社といたしましては，今一度基本に立ち返り，製品事業の競争力を強化すべく，顧客の立場から見た魅力のある製品・サービスを提供すること，グローバル競争に勝ち抜くための組織づくりや世界各国のニーズに合った製品開発を行うこと，次世代の当社を担う新製品の事業化を促進することなどの施策に加え，激変する事業環境に的確に対応すべく経営のスピードを上げ，業績の回復に取り組んでまいる所存です。

株主の皆様におかれましては，従来にも増して御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年12月

取締役会長　西岡　喬

取締役社長　佃　和夫

事業報告

船舶・海洋部門

新造船需要が世界的に旺盛となる中，活発な受注活動を展開した結果，大型コンテナ船を一括受注する成果があったほか，自動車運搬船，大型油送船(タンカー)を成約することができたため，受注高は前年同期を大きく上回りました。

原動機部門

輸出は，需要が堅調なアジア，欧州を中心に積極的な受注活動を展開した結果，台湾，スペイン向けガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラント，タイ向け石炭焚き火力発電プラント等の大型案件を相次いで成約したため，前年同期を大きく上回りました。また，国内も，電力会社の設備投資抑制基調が続く中，既納プラントの改良・改造・修理工事は低調でしたが，自家発電向けを中心にガスエンジンが好調であったことなどにより，前年同期を上回りました。この結果，部門全体の受注高は前年同期を大きく上回りました。

機械・鉄構部門

機械関係は，国内が大型ＰＣＢ廃棄物処理施設の受注により増加したことに加え，輸出も風力機械や排ガス処理装置を中心に好調であったため，前年同期を大きく上回りました。
一方，鉄構関係は，運搬機器でタイ向け大型案件を受注しましたが，公共投資抑制の影響を受けた橋梁が国内で減少したため，前年同期を下回りました。
以上の結果，部門全体の受注高は前年同期を上回りました。

航空・宇宙部門

防衛関係は，航空機用エンジン部品等が減少したものの，航空機の点検修理工事，航空機用油圧機器等が契約時期の繰り上げにより増加したため，前年同期を上回りました。一方，民間機関係は，米国同時多発テロ事件やＳＡＲＳの影響が残り需要が低迷したため，B777・B767 民間輸送機(後部胴体等)を中心に減少しました。この結果，部門全体の受注高は前年同期を下回りました。

中量産品部門

汎用機・特殊車両関係は，国内外の大口顧客向けに中小型エンジンが伸長したほか，過給機も堅調であったため，前年同期を上回りました。
冷熱関係は，ルームエアコンの国内販売が天候不順の影響で落ち込みましたが，大形冷凍機が国内で，カーエアコンが北米でそれぞれ好調であったため，前年同期並みとなりました。
産業機械関係は，中国を中心とする海外の堅調な需要に支えられた押出成形機，工作機械，オフセット枚葉機及び射出成形機が伸長したほか，商業用オフセット輪転機も国内外で好調であったため，前年同期を上回りました。
以上の結果，部門全体の受注高は前年同期を上回りました。

貸借対照表

科　　目	金　　額
（資　産　の　部）	百万円
流動資産	
現金預金	136,772
受取手形	10,201
売掛金	772,632
有価証券	8
製品	70,844
原材料貯蔵品	36,082
半成工事	815,364
前渡金	36,415
前払費用	2,347
繰延税金資産	33,923
その他流動資産	82,247
貸倒引当金	△60
合　計	1,996,780
固定資産	
有形固定資産	
建物	212,640
構築物	22,110
船渠船台	3,168
機械装置	168,068
船舶	18
航空機	279
車両運搬具	2,009
工具器具備品	45,257
土地	104,380
建設仮勘定	19,735
計	577,668
無形固定資産	
ソフトウェア	14,400
施設利用権	2,902
その他無形固定資産	1,581
計	18,884
投資その他の資産	
投資有価証券	389,555
長期貸付金	1,741
出資・保証金	16,603
長期前払費用	19,349
繰延税金資産	36,971
その他投資等	70,266
貸倒引当金	△63,133
計	471,354
合　計	1,067,907
資　産　合　計	3,064,688

平成15年９月30日現在

科　　目	金　　額
（負債の部）	百万円
流動負債	
買掛金	502,539
短期借入金	218,432
輸出引当借入金（返済１年以内）	11,505
コマーシャルペーパー	70,000
未払金	23,736
未払費用	33,028
未払法人税等	224
前受金	371,343
預り金	8,143
受注工事損失引当金	1,059
その他流動負債	11,971
合　計	1,251,984
固定負債	
社債	240,000
長期借入金	281,027
輸出引当借入金	36,994
退職給付引当金	113,382
日本国際博覧会出展引当金	62
その他固定負債	12,263
合　計	683,730
負債合計	1,935,714
（資本の部）	
資本金	265,608
資本剰余金	
資本準備金	203,536
合　計	203,536
利益剰余金	
利益準備金	66,363
固定資産圧縮積立金	6,620
海外投資等損失準備金	4
別途積立金	460,000
中間未処分利益	42,921
合　計	575,909
株式等評価差額金	84,060
自己株式	△141
資本合計	1,128,974
負債及び資本合計	3,064,688

損益計算書

平成15年４月１日から
平成15年９月30日まで

科　　目	金　　額
（経 常 損 益 の 部）	
営業損益の部	百万円
売上高	787,307
売上原価	717,052
販売費及び一般管理費	79,009
営業損失	8,754
営業外損益の部	
営業外収益	
受取利息及び配当金	10,668
その他収益	609
合　計	11,278
営業外費用	
支払利息	7,797
為替差損	13,541
その他費用	5,047
合　計	26,387
経常損失	23,863
（特 別 損 益 の 部）	
特別損失	
事業改善・再構築に係る特別対策費	2,057
税引前中間純損失	25,920
法人税，住民税及び事業税	100
法人税等調整額	△9,160
中間純損失	16,860
前年度繰越利益	59,782
中間未処分利益	42,921

（注）

重要な会計方針

1．有価証券の評価の方法は，子会社株式及び関連会社株式は原価法（移動平均法），その他有価証券のうち時価のあるものは決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し，売却原価は移動平均法により算定），その他有価証券のうち時価のないものは原価法（移動平均法）によっている。

2．たな卸資産の評価の方法は，半成工事は原価法（個別法），製品は原価法（移動平均法）ただし一部の見込生産品については低価法（移動平均法），原材料貯蔵品は原価法（移動平均法）ただし一部新造船建造用の規格鋼材については原価法（個別法），また一部の事業本部分については原価法（総平均法）によっている。

3．有形固定資産の減価償却方法は，建物（建物附属設備を除く）は定額法，建物以外は定率法によっている。

4．貸倒引当金は，金銭債権の貸倒による損失に備えるため，一般債権については貸倒実績率により，貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し，回収不能見込額を計上している。

5．受注工事損失引当金は，受注工事の損失に備えるため，手持受注工事のうち当中間期末で損失が確実視され，かつ，その金額を合理的に見積ることができる工事について，当下半期以降に発生が見込まれる損失を引当計上している。
なお，受注工事損失引当金計上対象案件のうち当中間期末における半成工事残高が当中間期末における手持受注残高を既に上回っている工事については，その上回った金額は半成工事の評価損として計上しており，受注工事損失引当金には含めていない。

6．退職給付引当金は，使用人の退職給付に備えるため，当年度末における退職給付債務（割引率３％）及び年金資産（退職給付信託を含む）の見込額に基づき，当中間期末において発生していると認められる額を計上している。過去勤務債務は一括費用処理することとしており，数理計算上の差異は，その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により翌年度から費用処理することとしている。

7．売上高は原則として引渡しを完了した営業年度に計上しているが，工期２年以上かつ請負金額 100 億円以上（航空・宇宙部門は50億円以上。平成12年度以前着工のものは 150 億円以上）の長期請負工事については工事進行基準により計上している。

8．消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっている。

その他の注記事項

1．有形固定資産の減価償却累計額は 1,240,180 百万円である。

2．貸借対照表に計上した固定資産のほか，リースにより使用している重要な固定資産として電子計算機がある。

3．子会社株式は51,130百万円であり，投資有価証券に含めている。また，子会社出資金は 8,263 百万円であり，出資・保証金に含めている。

4．子会社に対する金銭債権債務は次のとおりである。
短期金銭債権　151,780 百万円　長期金銭債権　17,850百万円
短期金銭債務　58,842 百万円

5．保証債務は 190,576 百万円である。

6．受注工事損失引当金及び日本国際博覧会出展引当金は商法施行規則第43条に規定する引当金である。

7．１株当たりの当中間純損失は５円０銭である。

8．商法施行規則第 124 条第３号に規定する純資産額は87,036百万円である。

9．子会社との取引高は次のとおりである。
売上高　113,607 百万円　仕入高　139,259 百万円
営業取引以外の取引高　4,292 百万円

10．事業改善・再構築に係る特別対策費の主な内容は，設備移設関連費用，固定資産処分損及び特別退職金等である。

連結中間決算の概要

連結貸借対照表の要旨

平成15年９月30日現在

資産の部	
流動資産	23,318億円
現金預金	2,298
売上債権	8,809
有価証券	8
たな卸資産	10,451
その他流動資産	1,750
固定資産	13,131
有形固定資産	7,514
無形固定資産	341
投資その他の資産	5,274
投資有価証券	4,154
その他	1,120
資産合計	36,450

負債,少数株主持分及び資本の部	
流動負債	15,184億円
買入債務	5,534
短期借入金	3,789
前受金	3,846
その他流動負債	2,013
固定負債	8,328
長期借入金	3,983
その他固定負債	4,345
負債合計	23,513
少数株主持分	146
資本金	2,656
資本剰余金	2,038
利益剰余金	7,257
その他有価証券評価差額金	868
為替換算調整勘定	△27
自己株式	△1
資本合計	12,791
負債,少数株主持分及び資本合計	36,450

連結損益計算書の要旨

平成15年４月１日から
平成15年９月30日まで

売上高	10,000億円
営業費用	9,895
営業利益	105
営業外収益	110
営業外費用	309
経常利益	△94
特別損失	20
税引前中間純利益	△114
法人税等	△18
少数株主利益	8
中間純利益	△104

（注）1. 有形固定資産の減価償却累計額　14,471億円
　　2. １株当たり中間純利益　△3円10銭

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

平成15年４月１日から
平成15年９月30日まで

営業活動によるキャッシュ・フロー	949億円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△413
財務活動によるキャッシュ・フロー	△441
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1
現金及び現金同等物の増減額	93
現金及び現金同等物の期首残高	1,904
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	30
現金及び現金同等物の期末残高	2,028

TOPICS

世界最大のガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラントを受注

本年６月，当社は，台湾北部桃園県大潭に新設されるトータル出力420万kWの世界最大のガスタービンコンバインドサイクル＊火力発電プラントを台湾電力公司から受注しました。当社はガスタービンの性能と信頼性を含めた総合力を活かし，欧米の強豪企業との競争に打ち勝ち受注しました。

＊ガスタービンコンバインドサイクル発電
ガスタービンを使って発電し，その排熱を利用して蒸気タービンを駆動させて再度発電することにより発電効率を高める，環境にやさしい発電方式。

商業衛星打ち上げサービスでの国際協業に合意

当社は，商業衛星の打ち上げサービスで，アリアンスペース社(欧州)，ボーイング・ローンチ・サービス社(米国)との協業に合意しました。これは，３社のうち１社のロケットが打ち上げ困難となった場合に，他の会社がバックアップ打ち上げサービスを提供するというもので，３社の相互補完関係により世界の商業衛星運用会社が求める希望どおりの時期に衛星打ち上げが可能となります。

（上）衛星分離のイメージ図
（下）H-IIAロケット打ち上げの様子
写真提供(上下共に)：宇宙航空研究開発機構

次世代フォークリフト「グリンディア」発売

当社は，日産自動車との共同開発第１号のフォークリフト「グリンディア」を発売しました。日米欧の環境基準値をいち早くクリアしたエンジンや，運転席を離れるとマスト，走行操作がロックされる国内初の安全システムを搭載するなど，人と環境にやさしい次世代フォークリフトです。

フォークリフト
「GRENDIA（グリンディア）」

株主メモ

■決算期 …… 3月31日
■定時株主総会開催期 …… 6月下旬
■同総会議決権行使株主確定日… 3月31日
■利益配当金支払株主確定日… 3月31日
■中間配当金支払株主確定日… 9月30日
■その他の基準日 …… 上記のほか必要ある場合は，取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定
■公告掲載新聞 …… 日本経済新聞
なお，貸借対照表及び損益計算書につきましては，上記公告掲載新聞に掲載する決算公告に代えて，次のウェブサイトにおいて公示しております。
http://www.mhi.co.jp/index_kabu/bspl.html
■名義書換
名義書換代理人 …… 三菱信託銀行株式会社
名義書換取扱場所 …… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社　証券代行部
名義書換取次所 …… 三菱信託銀行株式会社　全国各支店
■手数料 …… 不所持株券の発行による株券の交付又は株券の失効，汚損，毀損による代券の交付の場合は，1枚につき200円
■1単元の株式数 …… 1,000株
■単元未満株式買取請求及び買増請求 … 単元未満株式の買取請求及び買増請求は，上記名義書換取扱場所及び名義書換取次所にて受け付けております。なお，買増請求は9月10日から9月30日までの間，及び3月15日から3月31日までの間は，お取り扱いができませんので，御留意ください。
（連 絡 先）…… 〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社　証券代行部
電話 0120-707-696（フリーダイヤル）
※住所変更，配当金振込指定・変更，単元未満株式買取請求・買増請求に必要な各用紙及び株式の相続手続依頼書の御請求は，専用のフリーダイヤル 0120-86-4490（24時間・音声自動応答）でも承ります。

表紙の写真： 瀬戸内海を望む愛媛県瀬戸町のせと風の丘パークに建設された西日本最大級の風力発電設備。11基が林立し，「風のまち」瀬戸町の新しいシンボル。